科目名： 生産システム工学特別研究（土木工学）			
英文名： Graduation Thesis Work			
担当者： 表寿一　青木繁　田口善文　中西祐啓　中平恭之　松岡良智			
専攻科：生産システム工学専攻	学年： 2	専攻区分：土木工学	開講期： 通年
科目種別： 必修	単位数： 6		

授　業　計　画

表： 国土計画・地域計画・都市計画を行う際、自然にあるいは環境にやさしい生態工学的な観点を重視した計画や設計が必要です。これを行うためには生態学的な基礎知識が必要です。今日人為的に創られた都市や農村景観は生態学的な配慮の欠落した、技術を重んじた設計や計画が施されています。そこで、実際にさまざまな自然・半自然・人工生態系(森林、河川、海洋、都市、農村など)に入り込んで調査・実験をおこない、自然生態系や都市生態系のメカニズムや問題点を理解します。そして、生態系の復元や再生あるいは環境にやさしい都市や農村の創造を目指すための生態学的な環境形成が必要となる技術を修得します。

青木： 都市地域計画・農村地域計画、まちづくり・むらづくりの実践的研究を行います。建築物や基盤施設の計画・設計から、地区計画更に地域計画に至るまで、まちづくり・むらづくりの現場、実地での調査を踏まえた研究を行います。統計データ等の文献調査、現地空間実態調査、環境点検及び計画づくりワークショップ等を適宜実施します。この場合、近年重要度が高まって来た、民（住民）産（企業）官（行政）学（大学・高専）連携において、学が地域づくりのリーダーシップを採ることを念頭に置き、その技術的プロセスを修得します。

田口： 強度の弱い地盤や土構造物の効率的な補強方法について研究します。近年、切羽前方を補強することにより、都市部の未固結な砂層を安価なNATMで施工することが可能となってきました。鏡ボルトや先受工などのトンネル切羽の補強技術について、補強材による強度増加の度合いや安定性向上効果を模型実験や要素試験により解明し、効率的な補強パターンを検討します。文献調査や実験、レポート作成、議論を通じて実験データの整理、調べる力、まとめる力、考察する力など、技術者としての総合的な能力の基礎を習得します。

中西： 治水や利水上の諸問題を考える場合、河川流量が最も重要な要素となる。河川流量は降水（雨、雪、みぞれなどの総称）と密接に関連しており、降水量の増加とともに河川流量も増大します。降水は、地域によって異なった降り方をします。また、時間的にも確率的に変動する。このような変動特性を実際のデータを解析することによって理解します。また、文献調査やインターネットで調査を行い、レポート作成や議論を通して、専門知識だけでなく、調べる力、まとめる力、発表する力、説得する力をつけさせます。

中平： 近年、モータリゼーションの進展により各地で様々な交通問題が発生しています。これらの問題を解決するためこれまでは道路の新設や改良といっ報を提供した場合を想定した交通流シミュレーションモデルの構築を目指します。そのために、文献調査やインターネットで調査を行い、レポート作成や議通じて交通計画の専門的知識を得るだけではなく、経済学やプログラミングなど幅広い基礎的知識の習得を目指します。

松岡： 既存不適格建築物の補強方法についての実験的研究を行います。既存不適格建築物の耐震補強の方法には，強度抵抗補強や靭性補強および抵抗と靭性の両補強を組み合わせる方法があります。しかし、工期短縮、騒音および粉塵などの問題を解決する必要があります。そこで、簡易的に取付け補強方法の提案をめざします。文献調査、実験、議論・レポート作成等を通して技術者としての能力の基礎を習得します。

■授業概要・方法等
学生各自が研究テーマを持ち，各指導教員の指導のもとで研究を行います。特別研究テーマに関して研究計画作成，文献調査，資料収集，調査・実験準備，調査・実験遂行，考察を行い，特別研究論文としてまとめ各自発表する。各分野の調査・実験等を基に研究を行い、その成果を特別研究論文としてまとめることによって自主的研究遂行能力を養成します。
■学習・教育目標および到達目標
受講者は、この授業を履修することによって、
1. (B-2)(C-1)自主的に調査や実験などを立案，計画，管理できる能力を育成する。
2. (B-2)研究の遂行を通して建設・環境に関する高度な専門知識と調査・実験遂行技術を習得する。
3. (B-2)習得した知識をもとに創造性を発揮させる。
4. (E-1)論文作成や研究発表を通して文章表現力，プレゼンテーション等のコミュニケーション能力を育成する。
ことができるようになります。
■教科書　教員毎に指示します。
■参考文献　教員毎に指示します。
■関連科目　各教員（各専門分野）の講義、土木工学実験
■成績評価方法および基準
特別研究発表会での審査及び特別研究論文の審査
成績：指導教員（主査）および副査1名または2名により，研究遂行（20%），論文（50%），発表（30%）で評価します。
詳細は，「生産システム特別研究評価用紙」に記載しています。
80点以上「優」，70点以上～80点未満「良」，60点以上～70点未満「可」，60点未満「不可」
■教員所在場所
表：図書館2階建築デザイン室　青木：図書館　田口：4号館2階都市環境系教員室　中西：4号館1階水理実験室
中平：本館1階寮務部　松岡：本館2階教務部
■授業評価アンケート実施方法　2月にアンケート用紙を配布します。
■メールアドレス
表：omote@ktc.ac.jp、青木：aokis@ktc.ac.jp、 田口：taguchi@ktc.ac.jp、中西：m-nakanishi@ktc.ac.jp、中平：nakahira@ktc.ac.jp、松岡：matsuoka@ktc.ac.jp
■オフィスアワー
表：月曜日の9限、青木：月曜日の9限、田口：火曜日と木曜日の8限、中西：木曜日8限
中平：火曜日と水曜日の12時15分～12時55分、松岡：水曜日の1限

科目名: 土木工学実験			
英文名: Experiment in Civil Engineering			
担当者: 田口善文 中西祐啓 中平恭之 松岡良智			
専攻科:生産システム工学専攻	学年: 2	専攻区分: 土木工学	開講期: 前期
科目種別: 必修	単位数: 1		

授 業 計 画

第1週～第4週
土の圧密試験を行い、圧縮指数、圧密係数、圧密降伏応力等を求めます。実際に試験を行いデータを整理することで、圧密現象の理解を深め、沈下量、圧密時間に関する計算力を身につけます(担当:田口)。

第5週～第8週
水理学に関する実験を行う。水理学は、静止または運動中の水の性質を調べ、それが他に及ぼす影響を研究する学問です。このうち運動している(流れている)水に関する実験を行い、水理学に対する理解を深めます(担当:中西)。

第9週～第11週
道路交通情報が提供された場合のドライバーの反応行動を表現できるシミュレーションモデルを構築し、道路交通情報の提供効果の分析を行います(担当:中平)。

第12週～第15週
ラーメン構造体の耐力を求めるプログラムを作成し、技術者としての応用力を身につけます(担当:松岡)。

授 業 概 要

■授業概要・方法等
土木工学の専門分野に関連する実験です。実験や数値解析を通じて、専門科目の理解を深めるとともに、自主的な実験の進め方、結果の評価の仕方、報告書の作成の仕方を学びます。
■学習・教育目標および到達目標
受講者は、この授業を履修することによって、
1.(B-2)土の圧密試験を計画・実施し、得られた結果を工学的に評価する。
2.(B-2)管路流れ・開水路流れの実験を計画・実施し、得られた結果を工学的に解析できる。
3.(B-2)交通流配分シミュレーションモデルを構築し、ネットワーク・パフォーマンスやドライバーの反応行動を理解する。
4.(B-2)ラーメン構造における解析法を身に付ける。
ことができるようになります。
■教科書 なし。 必要に応じてプリントを配布します。
■関連科目 水理学、水理学特論、地盤工学、土質工学特論、構造力学、構造力学特論、交通計画学、交通計画学特論、建設工学実験
■成績評価方法および基準
各担当者: 実験・実習時の実験レポート(100%)により評価します。
最終成績: 各担当者の平均点とします。
80点以上「優」, 70点以上～80点未満「良」, 60点以上～70点未満「可」, 60点未満「不可」
■教員所在場所
田口:4号館2階都市環境系教員室 中西:4号館1階水理実験室
中平:本館1階寮務部 松岡:本館2階教務部
■授業評価アンケート実施方法 10月にアンケート用紙を配布します。
■メールアドレス
田口:taguchi@ktc.ac.jp、中西:m-nakanishi@ktc.ac.jp、中平:nakahira@ktc.ac.jp、松岡:matsuoka@ktc.ac.jp
■オフィスアワー
田口:火曜日と木曜日の8限、中西:木曜日8限、中平:火曜日と水曜日の12時15分～12時55分、松岡:水曜日の1限

科目名: 土木工学演習			
英文名: A Seminar in Civil Engineering			
担当者: 青木繁 田口善文 中西祐啓 中平恭之 松岡良智			
専攻科:生産システム工学専攻	学年: 2	専攻区分: 土木工学	開講期: 通年
科目種別: 必修	単位数: 2		

授 業 計 画

第1週～第5週
青木:都市地域計画・農村地域計画、まちづくり・むらづくりの計画演習を行います。実際にモデル地区を選定し、建築物や基盤施設の計画・設計から、地区計画更に地域計画に至るまで、計画やデザインの演習を行います。モデル地区の地域条件を踏まえ、明確な計画のコンセプトに基づいたプレゼンテーション技術を修得します。

第6週～第10週
田口:土質工学特論、土木工学実験で習得した知識をもとに土構造物の設計に関連する演習を行います。ここでは斜面の安定計算を例に、与えられた地盤の物性値(N値等)から、設計用地盤定数を推定し、種々の斜面安定解析方法を駆使して、与えられた斜面の安全率および安定性を検討します。

第11週～第20週
中西:学生自らが問題を設定し、役割分担を決めて問題の解決に当たるというプロジェクトに取り組みます。テーマの設定は自由ですが、プロジェクトは土木工学専攻だけでなく、機械工学専攻・電気電子工学専攻の学生と共同で行える内容のものとします。各専攻より1名ずつ選出された担当教員はプロジェクトを見守り、適宜助言や示唆を与え、報告書や作品等の評価を行います。

第21週～第25週
中平:本講義では、様々なプロジェクトを実施するために必要なデータの解析を行う。実際のアンケート調査データを用いて、プロジェクトを実施するために必要な様々な要因を把握することで、実施のための調査・準備作業を習得し、プロジェクトが実施可能か否かの判断を行う技術を習得します。

第26週～第30週
松岡:本講義では、構造力学と鉄筋コンクリート工構造学を取り入れ、配筋設計までを行います。講義では、主に、荷重、設計ルートの判定、D値、層間変形角、剛性率、偏心率等を中心に講義を行い、構造物の力学的性状および破壊性状どのように影響するかを学びます。

授 業 概 要

■授業概要・方法等
　講義で履修した内容を応用して各種の企画・計画・設計に取り組み、エンジニアリングデザイン能力をつけることを目的とします。また、学生自ら問題を設定し役割分担を決めて問題解決に当たり、チームで仕事をするための能力を養成します。オムニバス方式で各担当教員から与えられた課題に対して自由な発想で各自の創意工夫を入れながら解決のための設計またはチーム活動を行います。結果はレポートにまとめ提出します。
■学習・教育目標および到達目標
　受講者は、この授業を履修することによって、
1.(B-2)モデル地区の地域計画上の問題点を整理し、具体的な計画・提案の方法を修得する。
2.(B-2) 斜面安定に関する解析の方法や評価方法を身につける。
3.(B-4)他者と協働する際に、自己のなすべき行動を的確に判断し、実行する能力を身につける。
4.(B-4)他者と協働する際に、他者のとるべき行動を判断し、適切に働きかける能力を身につける。
5.(B-2) 交通に関する各種の予測手法や評価手法等を身に付ける。
6.(B-2) 構造計算における結果のまとめ方、表記方法を身につける。
ことができるようになります。
■教科書　なし。必要に応じてプリントを配布します。
■参考文献　教員毎に指示します。
■関連科目　各教員(各専門分野)の講義、土木工学実験、生産システム工学特別研究
■成績評価方法および基準
担当教員が演習毎に提出させるレポート(100%)により評価します。
最終成績は教員毎の成績の平均点とします。
80点以上「優」, 70点以上～80点未満「良」, 60点以上～70点未満「可」, 60点未満「不可」
■教員所在場所
青木繁:図書館、田口善文:4号館2階　都市環境系教員室、中西祐啓:4号館1階　水理実験室、
中平恭之:本館1階　寮務部、松岡良智:本館2階　教務部
■授業評価アンケート実施方法　2月にアンケート用紙を配布します。
■メールアドレス
青木:aokis@ktc.ac.jp、 田口:taguchi@ktc.ac.jp、中西:m-nakanishi@ktc.ac.jp、中平:nakahira@ktc.ac.jp、松岡:matsuoka@ktc.ac.jp
■オフィスアワー
青木:月曜日の9限、田口:火曜日と木曜日の8限、中西:木曜日8限
中平:火曜日と水曜日の12時15分～12時55分、松岡:水曜日の1限

科目名： 都市環境生態工学特論		英文名： Urban Ecological Technology(Urban Ecology)	
担当者： 表寿一			
専攻科： 生産システム工学	学年： 2	専攻区分： 土木工学	開講期： 前期
科目種別： 選択必修	単位数： 2		

授 業 計 画	授 業 概 要
第 1週 都市型社会とは、 第 2週 都市の大気環境 第 3週 ヒートアイランド 第 4週 都市災害(ゲリア豪雨) 第 5週 都市のインフラストラクチャ整備 第 6週 都市のエネルギー供給システム 第 7週 都市の水処理・再生システム 第 8週 都市の廃棄物処理システム 第 9週 都市交通システム 第10週 持続可能な都市づくり、 第11週 循環型都市づくり 第12週 環境共生型都市づくり 第13週 エコシテイー・コンパクトシテイー 第14週 期末試験 第15週 答案返却・解答	■授業概要・方法等: 人間の生活の場としての都市は、ますます人口の増加が進みエネルギーの大量消費に伴う大気汚染とヒートアイランド化、河川や地下水の水質悪化、インフラ整備、ごみ増加と処理施設の確保問題や人口過密化による道路渋滞と健康被害、事故の増加、自然災害による被害の危険性増大など抱えており、都市環境を改善し維持することが重要な課題となっています。そこで、本講義では都市に関連する専門知識や技術、ならびに都市環境の設計・計画にいたるまでの都市環境学の基礎を学びます。 ■学習・教育目標および到達目標 都市環境としての基礎知識を身に付けることを目標とします。 受講者は、この授業を履修することによって、 (B-1) (D-2)土木・建築の施設を作る場合に、環境を配慮した地点の選定、工事方法、施設の設計、処理、対策の基礎を理解する。 ことができるようになります。 ■授業の進め方 Power point ,ビデオなど用いての講義形式で行います。 ■教科書 都市環境学(都市環境学教材編集委員会編)朝倉書房 ■到達目標 都市環境学の基礎知識習得と土木・建築に関連する知識習得 ■ 関連科目 生産環境工学 ■試験方法 種類: 方式: 小論文 ■成績評価基準 定期考査成績:小論文(100%)で評価します。 最終成績:定期考査成績とします。 80点以上「優」, 70点以上～80点未満「良」, 60点以上～70点未満「可」, 60点未満「 ■教員所在場所 図書館2階, 建築デザイン室

科目名： 都市交通計画学特論		英文名： Advanced Transportation Planning	
担当者： 中平恭之			
専攻科:生産システム工学専攻	学年： 2	専攻区分： 土木工学	開講期： 前期
科目種別： 選択必修	単位数： 2		

授 業 計 画	授 業 概 要
第 1週 講義内容の説明、都市交通計画序論 第 2週 道路交通量の将来推計(1)将来の交通量推計の手順 第 3週 道路交通量の将来推計(2)発生集中交通量の推計 第 4週 道路交通量の将来推計(3)分布交通量の推計 第 5週 道路交通量の将来推計(4)配分交通量の推計 第 6週 道路輸送システム(1) 第 7週 道路輸送システム(2) 第 8週 軌道系輸送システム 第 9週 海上・航空輸送システム 第10週 情報提供システムの効果計測手法(1)情報提供によるドライバーへの影響 第11週 情報提供システムの効果計測手法(2)情報提供システムの効果計測手法 第12週 情報提供システムの効果計測手法(3)簡単なデータを用いた効果計測 第13週 情報提供システムの効果計測手法(4)簡単なデータを用いた効果計測 第14週 期末試験 第15週 答案返却・解答	■授業概要・方法など 都市における最も重要な施設の一つは交通施設であり、都市の発展に交通施設の整備は必要不可欠です。本講義では、都市における交通施設の整備・計画手法を理論から実践できる知識を身につけます。交通需要予測から交通プロジェクト評価にいたる一連の流れを理解するとともに、各種の分析手法を理解し応用できる技術者の育成を目指します。 ■学習・教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、 1.(B-1)交通量の将来予測手法を理解する。 2.(B-1)各種の輸送システムについて基本的概念を理解する。 3.(B-1)ドライバーの知覚形成過程等を理解する。 4.(B-1)ドライバーの行動選択過程等を理解する。 ことができるようになります。 ■教科書 講義ごとに指示します。 ■参考文献 交通計画、石井一郎編著(森北出版株式会社) ■関連科目 交通工学(5年生)、土木計画学(5年生)、交通計画特論(専攻科1年生) ■成績評価方法および基準 種類: 定期試験(1回), 方式: 記述式 定期考査成績:定期試験(100%)により評価します。 最終成績:定期考査成績とします。 80点以上「優」, 70点以上～80点未満「良」, 60点以上～70点未満「可」, 60点未満「不可」 ■教員所在場所 本館1階 寮務部 ■授業評価アンケート実施方法 10月にアンケート用紙を配布します。 ■メールアドレス nakahira@ktc.ac.jp ■オフィスアワー 火曜日と水曜日の12時15分～12時55分

科目名： 水工学特論		英文名： Hydrology	
担当者： 中西祐啓			
専攻科： 生産システム工学専攻	学年： 2	専攻区分： 土木工学	開講期： 前期
科目種別： 選択必修	単位数： 2		

授 業 計 画	授 業 概 要
第 1週 ガイダンス:授業の進め方について説明 水文学とは： 水文学的水循環，世界と日本の水循環 第 2週 気象と降水： 降水の発生原因と分布 第 3週 水文学の基礎概念： 蒸発と発散，浸透 第 4週 洪水流出 第 5週 ハイドログラフとその特性： ハイドログラフ，流出特性 第 6週 流出解析： 合理式法，単位図法 第 7週 洪水追跡計算： 貯留モデル，水理モデル 第 8週 統計的解析： 頻度解析方法(最小自乗法) 第 9週 統計的解析： 頻度解析方法(積率法) 第10週 統計的解析： 頻度解析方法(最尤法) 第11週 統計的解析： 確率分布(正規分布，対数正規分布) 第12週 統計的解析： 確率分布(ガンマ分布，指数分布) 第13週 統計的解析： 確率分布(ガンベル分布) 第14週 期末試験 第15週 答案返却・解答	■授業概要・方法等 水工学は，水文学，河川工学，海岸工学，港湾工学，発電水力，上下水道工学，灌漑・排水，地下水，砂防など水に関する工学を総称したものです。水工学特論では，地域的にも時間的にも確率変動する降雨の性質(水文学)およびその降雨によってもたらされる流出の問題(河川工学)について理解します。 ■学習・教育目標および到達目標 受講者は，この授業を履修することによって， 1．(B－1)降水の発生原因を理解する。 2．(B－1)流出解析方法(合理式)の計算方法を理解する。 3．(B－1)頻度解析方法を理解する。 ことができるようになります。 ■教科書 池淵周一／椎葉充晴／宝馨／立川康人共著 「エース水文学」 朝倉書店 ■参考文献 神田徹／藤田睦博共著 「新体系土木工学26 水文学」 技法堂出版 ■関連科目 水理学特論 ■成績評価方法および基準 種類： 定期試験(1回)，方式： 記述式 定期考査成績： 定期試験(60%)，演習問題(40%)で評価します。 最終成績：定期考査成績とします。 80点以上「優」，70点以上～80点未満「良」，60点以上～70点未満「可」，60点未満「不可」 ■教員所在場所 4号館1階 水理実験室 ■授業評価アンケート実施方法 10月にアンケート用紙を配布します。 ■メールアドレス m-nakanishi@ktc.ac.jp ■オフィスアワー 木曜日8限

科目名： 建設材料学特論		英文名： Advanced Construction Materials	
担当者： 松岡良智			
専攻科：生産システム工学専攻	学年： 2	専攻区分： 土木工学	開講期： 後期
科目種別： 選択必修	単位数： 2		

授 業 計 画	授 業 概 要
第 1週 建設材料の特性属材料 第 3週 建設材料の特性属材料 強度 第 4週 建設材料の特性属材料 強度 第 5週 建設材料の特性属材料 耐久性 第 6週 建設材料の特性属材料 水、火、熱に対する性質 第 7週 建設材料の特性属材料 水、火、熱に対する性質 第 8週 建設材料の特性属材料 音に対する性質 第 9週 コンクリートプレストレストコンクリート製品 第10週 コンクリートプレストレストコンクリート製品 第11週 空胴コンクリートブロック、コンクリートポール 第12週 石綿セメント製品、木片セメント版類27 第13週 プラスチック材料プラスチックの種類と特性、プラスチック製品 第14週 後期期末試験 第15週 答案返却と解答の解説	■授業概要・方法等 授業は講義を中心に行い、その間に演習を取り入れます。 ■学習・教育目標および到達目標 1.(B-1)材料の特性を理解する。 2.(B-1)複合材料の特性を理解する。 ことができるようになります。 ■授業の進め方 講義を中心に授業を進める。プリントにおいて問題を中心に解説を進めていきます。 ■教科書 ■参考書 ■関連科目 ■試験方法 種類： 定期試験(1回)，方式： 記述式 ■成績評価基準 定期試験(100%)で評価します。 80点以上「優」，70点以上～80点未満「良」，60点以上～70点未満「可」，60点未満「不可」 ■教員所在場所 本館2階 教務部 ■授業評価アンケート実施方法 前期末にアンケート用紙を配布します。 ■メールアドレス matsuoka@ktc.ac.jp ■オフィスアワー 火曜日と水曜日の12時15分～12時55分

科目名： 環境地盤工学特論		英文名： Advanced Environmental Geotechnics	
担当者： 田口善文			
専攻科：生産システム工学専攻	学年： 2	専攻区分： 土木工学	開講期： 後期
科目種別： 選択必修	単位数： 2		

授 業 計 画	授 業 概 要
第 1週 ガイダンス、環境地盤工学とは 第 2週 環境地盤工学の視点からの土 第 3週 土壌・地下水汚染 第 4週 地盤の環境災害：土工事の濁水・汚泥 第 5週 地盤の環境災害：建設残土 第 6週 地盤の環境災害：廃棄物の処分場 第 7週 地盤の環境災害：廃棄物の有効利用 第 8週 地盤の汚染：重金属汚染、人工化学物質汚染 第 9週 地盤の汚染：放射能汚染 第10週 地盤環境の保全：土の浄化作用 第11週 地盤環境の保全：地下水の保全 第12週 地盤の災害と防災：地すべり、土石流、斜面崩壊 第13週 地盤の災害と防災：液状化 第14週 期末試験 第15週 答案返却・解答	■授業概要・方法等 従来の地盤に関する環境問題としては、圧密沈下、斜面崩壊、液状化など地盤の環境災害が挙げられます。近年では、地下水汚染、地盤汚染、放射能汚染、建設残土処理、廃棄物処分などが新たな課題となっています。授業では、これらの発生原因、メカニズム、評価方法、対策・修復方法について講義します。 ■学習・教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、 1. (B-1)(D-2)地盤に関する環境問題の種類と対応策を理解する。 2. (B-1)地盤の環境災害の内容と対策方法を理解する。 ことができるようになります。 ■教科書 プリントを配布します。 ■参考文献 地盤工学会、環境地盤工学入門 澤孝平ほか、建設工学シリーズ 地盤工学、森北出版 冨田ほか、最新土質力学(第2版)、朝倉書店 ■関連科目 地盤工学(3、4年) ■成績評価方法および基準 定期試験：記述式。 定期考査成績：定期試験成績100%で評価します。 最終成績：定期考査成績とします。 80点以上「優」, 70点以上～80点未満「良」, 60点以上～70点未満「可」, 60点未満「不可」 ■教員所在場所 4号館2階 都市環境系教員室 ■授業評価アンケート実施方法 10月にアンケート用紙を配布します。 ■メールアドレス taguchi@ktc.ac.jp ■オフィスアワー 火曜日と木曜日の8限

科目名： 農村地域計画学特論		英文名： Planning of Rural Area	
担当者： 青木繁			
専攻科：生産システム工学専攻	学年： 2	専攻区分： 土木工学	開講期： 後期
科目種別： 選択必修	単位数： 2		

授 業 計 画	授 業 概 要
第 1週 ガイダンス、農村(むら)とは、むら・部落・農業集落 第 2週 むらの単位、むらの範囲 第 3週 集落の沿革、全国の集落数 第 4週 集落の大きさ 第 5週 風水学に学ぶ 第 6週 地名 第 7週 並んで住む 第 8週 かたまって住む 第 9週 ちらばって住む 第10週 中心集落1 第11週 中心集落2 第12週 混住化集落 第13週 限界集落と今後の農村計画の課題 第14週 期末試験 第15週 答案返却・解答、総括	■授業概要・方法等 農村における様々な建築物の設計や農村施設の建設更に公園緑地の整備等に携わる専門家に必要な知識と技術を習得します。特に、時代の要請である、環境、景観、福祉、住民参加型コミュニティ計画、農村都市共生計画等を重要視します。 ■学習・教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、 1.(B-1)地域計画における農村計画の位置づけを理解する。 2.(B-1)現代社会における農村計画の課題を理解する。 3.(B-1)農村と都市の共生計画の基礎的理論を理解する。 ことができるようになります。 ■教科書 農村工学研究35「集落空間の計画学－農村集落のかたちー」農村開発企画委員会 ■参考文献 図説・集落・その空間と計画(都市文化社)、景観法を活かす(学芸出版社) ■関連科目 都市地域計画学特論、土木工学演習、生産システム工学特別研究 ■成績評価方法および基準 種類： 定期試験(1回), 方式： 課題・レポート提出 定期考査成績：定期試験(100%)で評価します。 最終成績：定期考査成績とします。 80点以上「優」, 70点以上～80点未満「良」, 60点以上～70点未満「可」, 60点未満「不可」 ■教員所在場所 図書館 ■授業評価アンケート実施方法 2月にアンケート用紙を配布します。 ■メールアドレス aokis@ktc.ac.jp ■オフィスアワー 月曜日9限